

<スーパースポーツ用電子制御式“コンバインド ABS”>

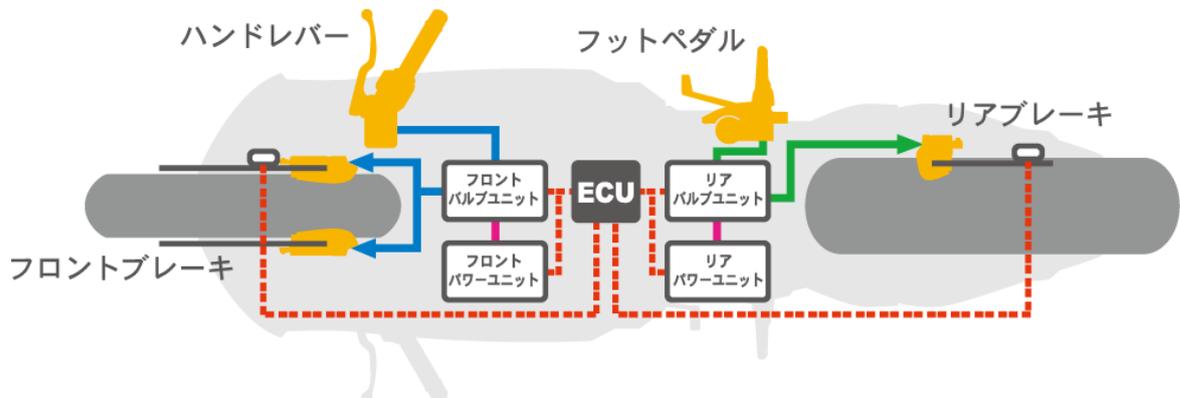
●ピッチングの発生を抑えるスムーズな液圧制御

現行のスポーツモデルに採用している機械制御式コンバインドブレーキシステムは、PCV(プレッシャー・コントロール・バルブ)の働きによって、制動力を前輪、後輪に適切に配分しています。

CBR600RR<ABS>の電子制御式“コンバインド ABS”では、ブレーキの入力状態をECUが検知・演算し、前輪側と後輪側に配置されたパワーユニット内のモーターを作動。前後キャリパーにそれぞれ独立したブレーキ液圧を発生させることで、さまざまなシチュエーションに最適な制動力を与えています。

この「ブレーキ・バイ・ワイヤ」方式のシステムは、従来の機械制御式コンバインドブレーキシステムと比較して、よりスムーズな液圧制御が可能となり、ブレーキング時における車体のピッチング発生を効果的に抑えることができます。

■スーパースポーツ用電子制御式“コンバインド ABS”システム図



※ハンドレバーとフットペダルを操作した液圧を信号に変換し、ワイヤ(電線)を通じてパワーユニットで液圧を発生させブレーキをかける「ブレーキ・バイ・ワイヤ」方式。前後ブレーキの効き、ABSのきめ細かな作動をコンピューターで制御する。